

2023年1～2月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

住み古りし谷戸を深めて梅探る
寒月の白さが闇をこはばらす
青くなる空へと開き初めし梅
廻ることなき金銀の飾独楽
白魚の透ける命のはねる枡

八王子 石井 蓉子

真知子巻して寒き一日を過す
一日を使い切ったる賀状書き
北風に洗濯物がこごえそう
食べられる事の幸せ冬至がゆ
バレンタイン少女の頃に戻りたし

新宿区 壺守 景子

山茶花の一片からの崩れかな
初鴉一声置いて飛びにけり
どんど爆ぜあとづさりする子犬かな
葉一枚閉じ込め池の氷たる
春寒し旅の衣に迷いたり

町田 小森 まさひこ

ご神木に祈る佳人の淑気かな
農高生の輪番登校三が日
投句締め午前八時てふ初句会
冬の靄生まれ山湖の夜明けかな
雪の間の畝に立ちたる緑かな

2023年3～4月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

やはらかに典雅に灯す雛の宿
気力体力ためされてゐる余寒
茎立の花もろともに漬け込みぬ
うららかや行きも帰りも渡し舟
音を立て塩吹き散らす夜の浅蜩

八王子 石井 蓉子

寒明て青空どこか穏やかに
大空に白き月置き冬終る
北窓をそっと開いて深呼吸
美容院鏡に春めく髪の吾
クロッカス真中にお日様置いてをり

町田 小森 まさひこ

雛飾る文学館の一室に
主無き一年たちし庭の春
俳磚の文字の浮き出す春の雨
六甲に色生まれそむ汀子の忌
文学館に伸びたる梅の盛りなる

2023年5～6月掲載分

2023年7～8月掲載分

2023年9～10月掲載分

2023年11～12月掲載分